

3. 中国及び低・中所得国における病診連携促進のための研修事業

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター（NCGM）

【現地の状況やニーズなどの背景情報】

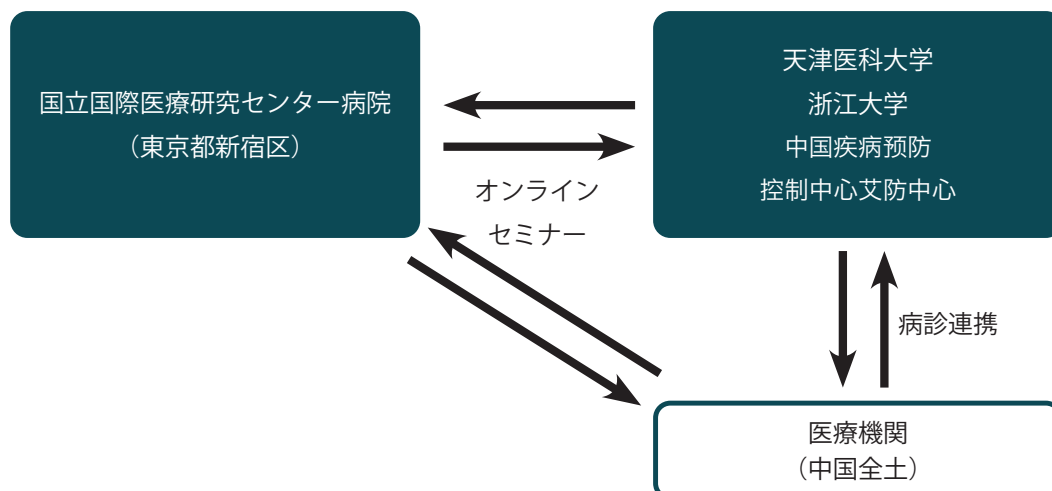
SDGs の Target 3.4 に関連する指標「30 歳から 70 歳までの、心血管系疾患・がん・糖尿病・慢性呼吸器疾患の非感染症疾患（NCD）による死亡率」は、2016 年時点で中国は 17%、低・中所得国のベトナムは 17.1%、ネパールは 21.8% で、日本は 11% である（World Health Statistics 2020）。NCD は、中国及び低・中所得国に於いても大きな課題となっている。当院は、医療水準向上を目指すために、2018 年に中国の清華大学、北京大学と MOU を締結した。現在、これらの 2 機関をはじめ、他の中国の医療機関も含めたオンラインセミナーを開催することが可能となった。グローバルな課題である NCD の研修オンラインセミナーを中国及び低・中所得国を対象に開催することで、それらの国の病診連携を進め、その結果として NCD 対策に貢献すると考えた。

【事業の目的】

NCGM が中国及び低・中所得国の医療機関を対象に、NCD に関するセミナーを開催し、日本の医療技術、医療ケアを紹介することで、中国及び低・中所得国の医療機関内での情報交換を活発にし、病診連携を促進する。

【研修目標】

日本の糖尿病などの NCD に関する予防・治療・医療ケアの紹介を行う。中国側の各医療機関の専門家との意見交換、質疑応答を行う。その過程で日本と中国の違いからお互いが学び、各医療機関の病診連携に繋がる。



1年間の事業内容

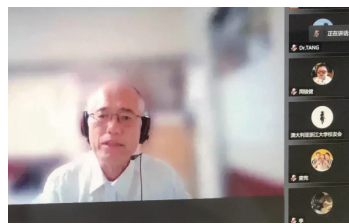
令和3年	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
研修内容	A. オンラインセミナー研修準備 研修資料作成 資料のWeb上掲載		A. オンラインセミナー研修準備 研修資料作成 資料のWeb上掲載		A. オンラインセミナー研修準備 研修資料作成 資料のWeb上掲載		A. オンラインセミナー研修準備 研修資料作成 資料のWeb上掲載			
	https://www.hosp.ncgm.go.jp/icc/020/index.html									
	 7/25セミナー実施 (糖尿病) 参加者 770名		 9/25セミナー実施 (糖尿病) 参加者 223名		 12/1セミナー実施 HIV/AIDS 参加者 10,500名					

当初の計画では、2022 年 1 月に中国でのセミナー行う予定でしたが、コロナ禍のため実施することはできませんでした。

オンラインセミナーの写真と広告

糖尿病 7/25, 9/25

HIV/AIDS 12/1

[illegible]



世界艾滋病

2021 主题活动日

2021 WORLD AIDS DAY THEME



赵燕
中国疾病预防控制中心
艾滋病预防与控制所所长



周伯
中国疾病预防控制中心
性病艾滋病预防控制中心主任



卢洪洲
复旦大学附属华山医院
感染科主任



王晖
中国疾病预防控制中心
性病艾滋病预防控制中心副主任



张亮
中国疾病预防控制中心
性病艾滋病预防控制中心副主任

中日艾滋病论坛（线上会）

(China-Japan summit about AIDS treatment and prevention Webinar)

特邀报告

Invited Presentation

2021年12月1日 15:00-16:30

1st December 2021 (African)





会议主持：卢洪洲

Host: Lu Hongzhou, President

时间 Time	内容 Topic	演讲者 Presenter
15:00-15:40	日本艾滋病的流行与诊疗现状 The Current Prevalence, Diagnosis and Treatment of AIDS in Japan	周 炯 Shinichi Oka
15:40-16:10	中国艾滋病诊疗的现状与挑战 Current Status and Challenges about AIDS treatment and prevention in China	赵 燕 Zhao Yan
16:10-16:30	讨论 Discussion session	卢洪洲 Lu Hongzhou
	问题1: 如何更好的降低艾滋病的发病率与死亡率?	蔡卫平 Cai Weiping
	问题2: 中日两国各自的HIV耐药网络的情况及未来的发展?	王 晖 Wang Hui
	What is the current status of HIV drug resistance networks in Japan & China?	沈晓忠 Shen Xiaozhong
16:30-17:00	大道至简，助力3T时代 3T/AT as Better As You Can	王 晖 Wang Hui

主办单位 中国性病艾滋病防治协会
主 办 方

糖尿病のオンラインセミナーと HIV/AIDS のオンラインセミナーのフライアーと実際のセミナー中の様子です。

今年度の成果指標とその結果

	アウトプット指標	アウトカム指標	インパクト指標
実施前の計画	①オンラインセミナー 開催数:4回 オンラインセミナー研修参加者:1回250名・4回で合計1,000名 ②現地セミナー開催数 2)セミナー研修参加者 200名	①非感染症患者(NCD)に関する病診連携が関わる症例検討会の回数:5回 ②NCDのセミナーによって紹介された内容(技術やケア)が使われた件数:5件	①SDGsのTarget 3.4の関連指標:「30歳から70歳の間で、心血管系疾患・がん・糖尿病・慢性呼吸器疾患の非感染症患者(NCD)による死亡率」中国は2016年で17%(World Health Statistics 2020)
実施後の結果	①開催数:3回 参加者数: 1回目770名(7/25) 2回目223名(9/25) 3回目10,500名(12/1) 合計11,493名 ②現地(中国)セミナー開催数:0回	①症例検討会回数:0回 ②セミナーによって紹介された内容が使われた件数:具体的なカウントは難しいが、日本の糖尿病に対する予防・治療・ケアや非AIDS指標悪性腫瘍に関する日本の知見は中国の医療関係者に影響を与えた。	①中国は2019年で15.9%(World Health Statistics 2021)

5

オンラインセミナーでは、参加者は非常に多く、特に、3回目(12/1)は1万人を超えました。医療従事者のみではなく、一般人の参加もあり、HIV/AIDSに関する注目度が高いことが示されました。

今年度の対象国への事業インパクト

健康向上における事業インパクト

- 事業で育成した保健医療従事者(延べ数)
 - ・ 対象国(中国)で研修(オンラインセミナー)中に質疑応答・ディスカッションを行った研修員の合計数
 - ・ 1回目(糖尿病):2名
 - ・ 2回目(糖尿病):4名
 - ・ 3回目(HIV/AIDS):4名
 - ・ 合計:10名
- 研修(オンラインセミナー)を聴講した研修員の合計数
 - ・ 1回目(糖尿病):770名
 - ・ 2回目(糖尿病):223名
 - ・ 3回目(HIV/AIDS):10,500名
 - ・ 合計:11,493名

日本の糖尿病の予防・治療・医療ケアを紹介するセミナーを2回行い、中国天津医科大学、浙江大学医学院附属第四医院、及びそれらの関連病院4か所(天津市胸科医院、浙江大学医学院附属邵逸夫医院、樹蘭(杭州)医院、浙江省人民医院)の糖尿病担当医師らが参加しました。(https://www.hosp.ncgm.go.jp/icc/020/025/diabetes_symposium.html)

セミナーの質疑応答では、日本で特徴的な特定検診及び保健指導、保健師や栄養士の糖尿病への関わり、指導を行う際の指標について話し合われました。また、最新の技術で血糖値を持続的に遠隔モニタリング測定する医療機器やその結果を活用する方法、糖尿病の合併症のスクリーニング方法、他科の糖尿病患者の管理の意見交換がされました。質疑応答の詳細は、以下のサイトをご覧ください。

https://www.hosp.ncgm.go.jp/icc/020/025/PDF/diabetes_symposium_Japanese_QandA.pdf

日本のHIV/AIDS対策の紹介する講演では、中国CDCと广东省、深圳市、上海の医療機関が参加しました。日本では非AIDS指標悪性腫瘍がHIV感染者の主要な死因の一つになったこと、また、その発症は一般の人より10年早いことが紹介されました。(https://www.hosp.ncgm.go.jp/icc/020/025/AIDS_symposium.html)

一方、中国では、現時点ではエイズ関連死亡に関するデータを収集、分析中であること、また、日本では問題になっていない薬剤耐性が、中国では大きな問題になっていることがわかり、中国CDCに対して、参加した地方の医療機関と直接話し合う場となりました。

ディスカッションの詳細は、以下のサイトをご覧ください。https://www.hosp.ncgm.go.jp/icc/020/025/PDF/20211201_discussion.pdf

これまでの成果

- ・今回我々が行った、オンラインセミナーでは、中国の医師達と日本の医師の間で、具体的にお互いの状況を明確にして、国による違いを理解しながら、情報交換が可能であった。
- ・中国内で、自ら医療機関が病診連携を確立する方法以外で、国外からの病院（NCGM）が、第三者あるいは仲介として介在することで、より病診連携が進められる可能性が認められた。
- ・病診連携は具体的な患者ケースに対しての連携を考えられるが、実際には、疾患に対する対応方針が含まれることでより医療レベルを向上させる点があると思われる。

今後の課題

今後の課題として、中国の医療機関は数多く、効果的なオンラインセミナー開催が求められる。今後の方針として、テーマを選び、中国側との事前の打ち合わせを行い、どのような形式でセミナーを行い、その結果を発信するかも含めて、中国の医療関係者側と協議を行っていく。

7

今年度のオンラインセミナーを実施した中で、1万人以上と数多くの人が参加できる強みが明らかになりました。医療機関の医師などとの学術的な意見交換のみならず、オンラインセミナーでは、周知の仕方一般を含み、疾患やそれに対する医療、ケアを正しく理解をしていただく機会として、十分に活用できることが分かりました。本事業は、病診連携を促進し、NCD対策にも貢献することを目指しましたが、コロナ禍のため、通常の face to face の研修から、オンラインを用いた研修に移行し、今後は、それぞれの利点を生かした研修を考えていく必要があると思われました。